



壊れた建物からけが人を救助する訓練



車に閉じ込められた人を救助する訓練



住民の防災意識向上
関係機関との連携強化

「防災の日」の9月1日、本市は陸上自衛隊相浦駐屯地で総合防災訓練を行いました。この訓練は市民の皆さんの防災意識の向上や関係機関との連携強化などを目的として平成8年度から行っており、21回目となった今回も陸上自衛隊や海上自衛隊、米海軍佐世保基地、警察署、電力会社、ガス会社、電気通信会社、消防団など、49団体、約1200人が参加しました。

訓練では、本市でマグニチュード6.9、震度6強の地震が発生し、家屋倒壊や道路損壊などの被害があり、津波の恐れもあるとの想定。本市と県北振興局は直ちに災害対策本部を設置し、関係機関に出勤を要請の上、緊急地震速報・津波警報発表による住民の避難訓練や住宅火災の初期消火訓練、応急送電訓練など30項目に及びさまざまな訓練を行いました。

朝長市長は訓練の講評で「8月26日から30日までの豪雨では、江迎地区で連続雨量649mmを観測し、7月20日の宇久地区に続き本年2回目の大雨特別警報が発表されました。全国的にこうした気象状況が続いており、防災訓練を繰り返し行うことは大変重要なことです」と振り返り、「大規模災害が発生した場合には関係機関との連携はもちろんのこと、自助・共助といった隣近所の連携や地域のつながりが大変重要になります。今回参加していただいた自主防災組織や消防団、婦人防火クラブ、町内会の皆さんには今後ともご協力をよろしくお願います」と話しました。

◎防災危機管理局 ☎23・9258

